

14

アレルギー

難しさ ★★★

分野 医学、免疫学



読む前に

1. あなたや友だちの中に、アレルギーなど生活で気をつけなければならないことがある人がいますか。



新しい言葉

システム	ウイルス	敵	進化(する)	現代	医療
進歩(する)	衛生	環境	整備(する)	機会	アレルギー
体質	診断(する)	体内	追い出す	仕組み	反応(する)
花粉	食物	数値	測定(する)	先に	述べる
疑う	皮膚	症状	(～)に対する	スギ	実施(する)
割合	実際に	花粉症	自覚	容易(な)	訴える
存在(する)	総合				

 読んでみよう

- ◆ 「アレルギーかな？」と思って、病院で診察を受けて薬をもらうまでにどのようなことがあるか想像しながら読んでみましょう。

私たちの体の中には、^{きせいちゅう}寄生虫、^{きいきん}細菌、ウイルスなどの敵から身体を守る^{めんえき}免疫システムが存在する。このシステムは、長い時間をかけて進化してきた。現代社会では、医療技術が進歩し衛生環境が整備されてきたことにより、^{きせいちゅう}寄生虫や^{きいきん}細菌が原因となる病気にかかることは少なくなっている。しかしながら、そのために^{めんえきりょく}免疫力をつける機会も減り、アレルギー体質の人が増えていると考えられている。では、アレルギーはどのようにして起こり、診断されているのだろうか。

^{きいきん}細菌やウイルスのような目に見えない危険なものが体に入ってきたときに、それを体内から追い出したり消したりする仕組みを^{めんえき}免疫反応という。一方、アレルギー反応は、花粉やダニの^{こん}糞、一部の食物など危険でないものにも間違っ^{めんえき}て免疫反応が働き、反応してしまうことである。この原因となる^{ぶつしつ}物質を^{こうげん}抗原（アレルギー）という。^{こうげん}抗原が体内に入ると、^{こうたい}抗体という^{ぶつしつ}物質がそれに反応し体内から^{はいしゆつ}排出しようとする。アレルギー体質の人は^{こうたい}抗体の中でも^{こうたい}IgE抗体が多く、この数値を測定することにより診断されることもある。

アレルギー体質の診断には次のような検査方法がある。まず、先に述べた^{こうげん}アレルギー^{とくいてき}特異的IgE抗体検査である。また、アレルギーの疑われる^{ぶつしつ}物質のエキスを皮膚につけて、そこを針で軽く^{きざ}傷つけるプリックテスト（prick test）という検査により行われる場合もある。しかし、検査だけでは不十分である。

国立^{せいいく}成育医療センターの研究チームは、ある会社の20代から60代の社員全員に対してスギ花粉、ダニなどに対するプリックテストを実施した。20代ではプリックテストで^{ようせい}陽性になった割合が80%であった。しかし、実際に花粉症などの症状があり、薬を使用している人はそのうちの約60%であった。それに対し、ダニアレルギーで自覚症状を持っている人はほとんどいなかった。

また、^{とくいてき}アレルギー^{こうたい}特異的IgE抗体が^{ようせい}陽性であるだけではアレルギーの病気があるとは診断できない。例えば、スギ花粉症の場合、スギ花粉^{とくいてき}アレルギー^{こうたい}特異的IgE抗体が^{ようせい}陽性と

ということだけではなく、スギ花粉が飛散しているときに、鼻水などの自覚症状があり、試験的にスギ花粉エキスを鼻に入れて反応が出た場合に、初めてアレルギーの病気と診断することができる。

このように、アレルギー体質は血液中のダニやスギ花粉などに対するアレルギー特異的IgE抗体の測定やプリックテストで分かる。しかしながら、アレルギーの病気の診断はそれほど容易ではない。アレルギー体質でなくても、鼻水、くしゃみ、かゆみなどの症状を訴える人は多く存在するからである。そのため、医師が検査結果と症状の両方を見て総合的に診断している。

〔斎藤博久『アレルギーはなぜ起こるか』（講談社）より構成〕

◇ 難しい言葉

免疫（免疫力）： 体に入ってきた病気の原因となる毒などを、体の中に入れて追いつき出す力。

寄生虫： 人や動物の体についたり、中に入ったりして生きていく生物。

細菌： 人に病気を起こすことがある小さな生物。ウイルスより10～100倍大きい。

物質： 物。物をつくるもの。

排出： 中にたまっているものを外に押し出すこと。

特異的IgE抗体： ある決まったアレルギーに反応して、体から出すために作られるもの。

エキス： 動物や植物からとった成分を熱したり乾燥させたりして濃くしたもの。

ダニ： 人や動物の皮膚にすんで血を吸う虫。（→図1）

糞： 動物が出す食べ物の残り。大便。

アレルギー： 抗原の中でもアレルギーの原因になるもの。

針： 細い金属で、布をぬうときや注射をするときに使う。（→図2）

傷つける： 相手にけがをさせること。

成育： 生まれて育つこと。

陽性： 検査の反応がはっきりとわかること。

飛散： ホコリやウイルス等とても小さいものがいろいろなところに飛んでいくこと。

かゆみ： かゆいと感じること。



図1 ダニ



図2 針



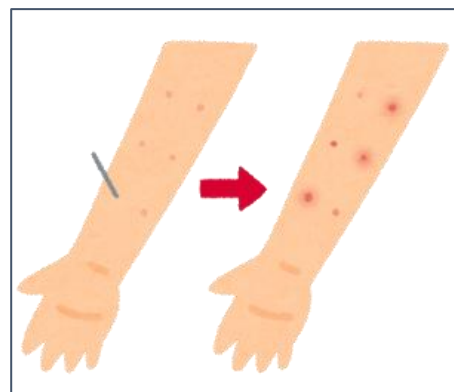
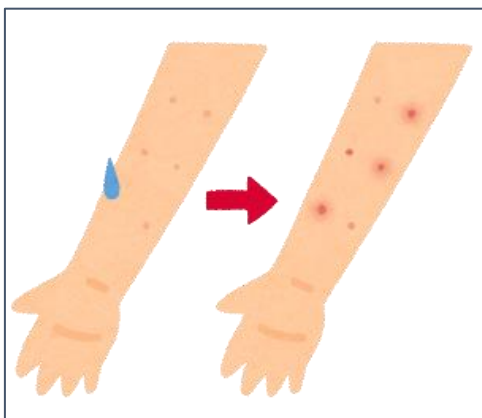
読みの練習

【問題 1】 <本文>を読んで、_____に適切な言葉を選び、書きなさい。

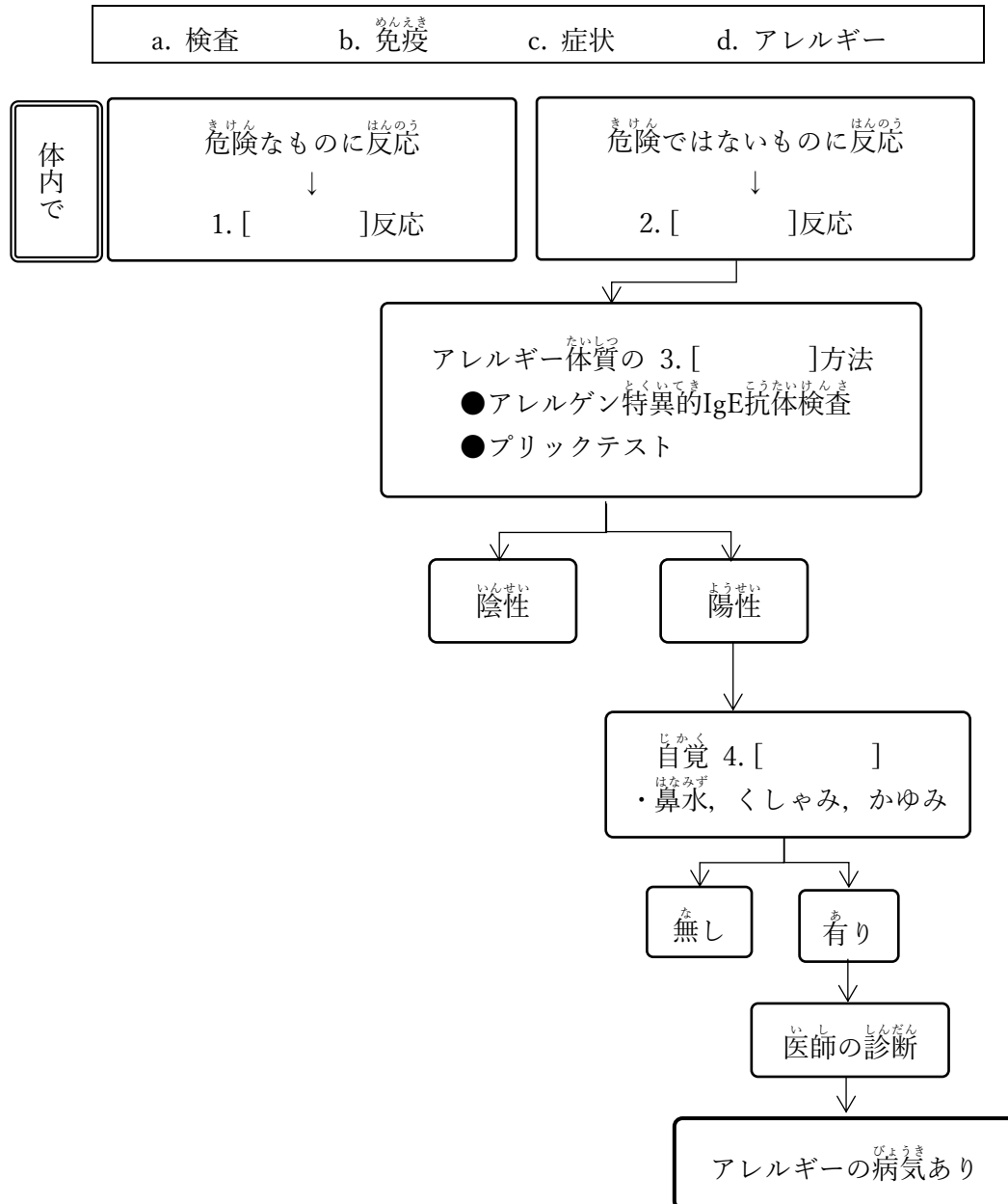
1. 現代社会では衛生環境が整ってきて寄生虫や細菌による病気は少なくなったが、
_____体質が増えていると考えられている。
2. アレルギー体質の診断には2つの_____方法がある
3. アレルギーの病気の診断には、アレルギー体質の検査結果と、鼻水などの_____の
両方が必要である。

【問題 2】 <本文>を読んで、次の文が正しいければ○、正しくなければ×を書きなさい。

- () 1. 衛生環境が良くなってきたため、寄生虫や細菌が原因の病気は減ってきた。
- () 2. 免疫反応は、花粉やダニの糞、一部の食物など危険でないものにも反応してしまうことである。
- () 3. アレルギー体質の診断方法には、アレルゲン特異的IgE抗体検査とプリックテストの二つがある。
- () 4. ある会社の20代の中で、ダニアレルギーの体質なのに自覚症状がある人はほとんどいなかった。



【問題 3】 下の図は、アレルギーの病気だと診断されるまでの流れを示しています。
1～4 に、a～d から選んで記号を書きなさい。



読んだあとで

アレルギーの症状があると、どのようなトラブルが起こりますか。また、そのトラブルを防ぐために、日本やあなたの国ではどのようなことが行われていますか。



ふくごうどうし 複合動詞 ②

2つの動詞を合わせて1つの動詞のように使います。

1. [動詞 1]+[動詞 2]で、[動詞 2]が[動詞 1]の補助的な意味を表します。
基本的な意味は[動詞 1]になります。[動詞 2]が[動詞 1]の意味を広げたり、限定したりすることによって、新しい複合動詞としての意味が現れます。
2. [動詞 2]が持つ意味として、例えば以下のようなものがあります。
 - 1) 開始・終了・(未)完了・継続等、時間的な意味を示すもの
例：入り込む・・・完全に入ってしまう
 ためこむ・・・ためることが続く
 歩き回る・・・歩いて同じところを何度も移動する
 - 2) 2つ以上の対象についての関係を表すもの
例：引き合う・・・両方から引く
 - 3) 空間的な変化の意味を加えるもの
例：見上げる・・・上を向いて見る

本書で出てきたものは、複合動詞の中のほんの一部です。

日本語力を高めるためには、このような複合動詞にも積極的に注意を向ける必要があります。どのような複合動詞が使われているか、見たり聞いたり読んだりする日本語から、ぜひ探し出してみてください。

参考：国立国語研究所「複合動詞レキシコン」<https://db4.ninjal.ac.jp/vvlexicon/>